

感性と理性、 さらに悟性

(ワークショップ体験より・雑感)

(財)和歌山社会経済研究所 主任研究員

中平 匡俊

1 「理性」とは

人間的理性はその認識の或る種類において特異な運命をもっている。それは、人間的理性が、拒絶することはできないが、しかし解答することもできないいくつかの問いに悩まされているという運命であって、拒絶することができないというのは、それらの問いが理性自身の本性によって人間的理性に課せられているからであり、解答することができないというのは、それらの問いが人間的理性のあらゆる能力を超え出ているからである。

この文章は、イマヌエル・カントが書いた『純粋理性批判』(原 佑 訳: 2005年、平凡社)の序文の最初の一節である。私はこの一節でギブアップ。「理性」とは何。とても次に進めないと思い本を閉じた。そもそも、本を手にした動機が哲学書のなかで最も難解な書物の一つと聞き、興味本位で開いただけなのだから到底無理である。

カントが言う「理性」はさておき、辞書を引くと一般的に「理性」とは、「概念的思考の能力、感性的欲求に左右されず思慮的に行動する能力」であると解説している。

「理性」とは人間が持つ能力であって、もう一方で人間は「感性」(能力と言っている)も併せ持つと考えると少し身近な感じになってくる。「理性」は持つと言うより育つ(育てる)方かもしれない。両方の能力をバランスよくコントロールし人間社会が成り立っているように思う。

2 「感性」と「理性」の対決(ワークショップ体験)

昨年の8月から12月にかけて、和歌山市中心市街地にある商店街「ぶらくり丁」に関するワークショップ(概要については下記のとおり)にメンバーの一人として参加した。ワークショップとは、参加メンバーによる能動的な行動・

意見を修練させ共同作品を完成させる作業場という意味である。いくつかの作業工程において、「感性」と「理性」が対決する。それはメンバー間においても、あるいは自分自身の内でもしばしば起こる。

記

ワークショップ概要

①タイトル

バーチャルぶらくり丁を創ってみよう

②テーマ

みんなで来街者視点のこうだったらいいねという理想的なぶらくり丁を考える

③プログラム

ぶらくり丁を散策する → 自由に意見交換する
→ 問題点等を話し合う→バーチャルぶらくり丁創りの方向性を討議する→ぶらくり丁の白地図にバーチャルぶらくり丁を描いていく→完成したバーチャルぶらくり丁を発表する

ワークショップの趣旨は、自由な発想で楽しい「ぶらくり丁」を創ろうというものであるから、いわば「感性」が主役となる。学生など若いメンバーからはアイデアがどんどん出てくる。一方、知識や経験や情報を多く持つ年輩者や、自身が属する組織や団体を意識した時、経済的負担を考慮した時、「理性」が許さないという具合になる。地域を活性化させるには「若者・ばか者・よそ者が必要」とはよく言ったものである。しかし、魅力的であるためには「感性」が主役とはいえ、実際の白地図には物理的限界があり、ある程度の現実味がないと説得力を欠く。

「感性」と「理性」が対決した結果、私たちが取り組んだワークショップの成果「バーチャルぶらくり丁」は完成した。自画自賛すれば、感性と理性のハーモニー「バーチャルぶらくり丁」の誕生である。

3 「バーチャルぶらくり丁」

江戸、明治、大正、昭和と激動の時代を通じ

和歌山における経済・金融・商業・物流・文化の中心として発展してきた「ぶらくり丁」。平成に入り、モータリゼーションの進展など生活様式が大きく変わる時代とともに、多様な機能が郊外に分散するなか、中心地の空洞化が著しく、かつての賑わいはない。

しかし、紀州の方言を名前の由来にもつきわめてユニークな「ぶらくり丁」を再び甦らせ、和歌山の貴重な財産として次の時代へ引き継ぐ必要がある。

あらゆる物や人が集まり、交流が行われたところという原点に戻り、「ぶらくり丁」の再生を考えたい。そして、その再生は、和歌山全体を元気にする、その使命を担うものでなければならない。「人流と物流の中心地・ぶらくり丁から元気発信」をコンセプトに、「バーチャルぶらくり丁」創りを行うことにした。どうだろうハーモニーを奏でているだろうか。(図1参照)

4 「悟性」

ここまでは、「感性」と「理性」とのバランスよいコントロールが物事がうまくいく秘訣のような主旨で述べてきたが、最近もう一つの言葉に出会った。それは「悟性」である。

「悟性」を辞書で引くと「広義には思考の能力。②カントにおいては、感性によって与えられる所与に基づいて概念を構成する能力で、理性と感性の中間にあり科学的思考の主体」とあった。

なんと、カントが再び登場してきた。理性同様、意味がよく分からない。そして『純粹理性批判』のなかで「悟性」が出てくるのかどうか知る由もない。

私は、「悟性」を素直に「人間の悟る力」と解釈することにし、ワークショップを振り返ってみた。多様な意見（「感性的」であれ「理性的」であれ）が修練され一定の成果に到達する際に最も必要な能力が「悟性」であり、「悟性」は耳を傾けることから始まるのだと勝手に結論づけた。

図1 人流と物流の中心地「ぶらくり丁」からのまちづくり

